

病害虫発生予察情報予報第13号

佐賀県農業技術防除センター

予報の概要

作物名	病害虫名	4月の予想発生量		病害虫防除のてびきの記載頁	予報対象の病害虫 (抜粋)	
		平年比	前年比			
普通作	大麦	赤かび病	やや少	少	132～134	 赤かび病
	および小麦	うどんこ病	並	並	135	
	特記事項 1. 赤かび病 大麦の防除適期は、葯殻抽出始め（出穂期の約2週間後）であり、更にその7日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる。 小麦の防除適期は、開花期～開花最盛期（出穂期の約10～14日後）であり、更にその10～20日後に2回目の散布を行うと効果が高まる。 圃場ごとの生育状況を確認し、適期に防除を行う。					
普通作	大麦	網斑病	並	並	131～132	
	特記事項 1. 網斑病 発生が認められる圃場がある。発生状況を確認し、出穂期～穂揃い期に本病を対象とした薬剤防除を行う。					
普通作	水稻	いもち病	多	並	131～140 142～147	 いもち病
	水稻	ばか苗病	並	並	131～140	
特記事項 1. いもち病 昨年、穂いもちの発生が多かったことから、菌密度が高まっていると考えられる。既存の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底するとともに、常発地帯では育苗期から防除を行う。						

作物名	病害虫名	4月の予想発生量		病害虫防除のてびきの記載頁	予報対象の病害虫(抜粋)	
		平年比	前年比			
施設野菜 共通	特記事項 1. アザミウマ類、コナジラミ類 今後、施設外からの侵入が増加するため、防虫ネットの状況を確認し破れ等がある場合は補修する。また、随時、発生状況を確認し、低密度時から薬剤防除を実施する。 2. 灰色かび病 今後は暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が多湿となりやすく本病の発生が増加しやすくなる。こまめな換気や循環扇の活用により適切な温湿度管理を行い、発病葉や果実は除去、処分するとともに、少発生時から薬剤防除を行う。					
	野菜 イチゴ (本圃)	ハダニ類	やや多	並	204~205	 ハダニ類
うどんこ病		並	並	194~196		
灰色かび病		並	並	197~198		
アブラムシ類		並	並	210~211		
特記事項 1. ハダニ類 . 薬剤防除により発生を抑えているものの、残存虫が認められる圃場が多く4月以降再び発生が増加する可能性がある。発生状況を随時確認するとともに、定期的に薬剤防除を実施する。 2. アザミウマ類 花での発生および果実の被害が一部圃場で認められる。花での発生状況を確認し低密度時から薬剤防除を実施する。 3. 親株でのハダニ類、うどんこ病、立枯性病害 健全苗を育成するため親株床から薬剤防除を実施する。立枯性病害(炭疽病、萎黄病、疫病)の苗での発生を抑えるため、発病した親株は、見つけ次第圃場外で適切に処分する。						
 アザミウマ類と果実の被害						
キュウリ		べと病	並	並	173~174	 コナジラミ類
		うどんこ類	並	並	179~181	
		褐斑病	並	並	177	
		灰色かび病	並	並	175	
	アザミウマ類	並	並	188~189		
	コナジラミ類	やや多	やや多	187~188		
特記事項 1. ウイルス病 黄化えそ病等のウイルス病が発生した場合は、早急に抜き取り圃場外で適切に処分する。						

作物名	病虫害名	4月の予想発生量		病虫害防除のてびきの記載頁	予報対象の病虫害 (抜粋)	
		平年比	前年比			
野菜	トマト	葉かび病	やや少	少	221～222	 コナジラミ類
		灰色かび病	やや少	少	216～217	
		コナジラミ類	やや多	多	149～151 224～226	
		ハモグリバエ類	並	並	158～159 228	
	特記事項 1. 黄化葉巻病 (TYLCV)・茎えそ病 (CSNV) 等 黄化葉巻病が一部圃場で発生している。発病株は早急に抜き取り、適切に処分する。					
アスパラガス	アザミウマ類	並	並	301～302		
	アブラムシ類	並	並	303		
特記事項 1. 茎枯病、褐斑病、斑点病 立茎時の発病前から薬剤防除を実施する。また、茎枯病の発病茎は伝染源となるため、見つけ次第地際部から切断し圃場外で適切に処分する。						
ナス	すすかび病	やや多	やや多	231～232	 ナスすすかび病	
	灰色かび病	並	並	230～231		
	アザミウマ類	並	並	152～157 242		
	コナジラミ類	やや少	並	149～151 240～241		
	ハモグリバエ類	やや少	並	158～159 243		
特記事項 1. すすかび病 一部圃場で多発しており、今後も多発生が予想される。ハウスの換気をこまめに行い多湿にならないよう注意する。健全葉への伝染を防ぐため、発病葉の除去を行い、定期的な薬剤散布を行う。						
タマネギ	べと病	多	やや多	277～278	 べと病	
			注意報第10号を参照			
	ボトリチス葉枯症	やや少	やや少	279		
ネギアザミウマ	やや少	並	285～286			
特記事項 1. べと病 発生を認めている圃場では、早期に発生した発病株が伝染源となるため、栽培後半も防除を継続し、圃場内での発生を抑える。 また、発生を認めていない圃場では、伝染を抑えるため、定期的に防除を行う。 <u>(病虫害発生予察注意報第10号を参照)</u>						

作物名	病虫害名	4月の予想発生量		病虫害防除のてびきの記載頁	予報対象の病虫害(抜粋)	
		平年比	前年比			
花	キク	白さび病	並	少	375～376	 ナミハダニ
		アザミウマ類	並	並	152～157 382～383	
		アブラムシ類	並	並	379～380	
		ハダニ類	並	やや多	380～381	
		ハモグリバエ類	並	並	158～159 384～385	
		特記事項 1. ハダニ類 気温の上昇とともに増加するため、低密度時からの防除を徹底する。 2. アザミウマ類 今後、施設外からの侵入が増加するため、随時、発生状況を確認し、低密時から薬剤防除を実施する。 3. キクえそ病(TSWV)、茎えそ病(CSNV) アザミウマ類によって媒介されるキクえそ病、茎えそ病が圃場内で発生していた場合は、感染株を早急に抜き取り、圃場外で適切に処分する。				
果	カンキツ	そうか病	並	並	216～218	 カンキツかいよう病
		かいよう病	並	やや多	220～222	
		ミカンハダニ	多	多	239～242	
	特記事項 1. かいよう病 本病が前年に発生した園や、風当たりが強い園、罹病性品種(ネーブル、はるみ等)が植栽された園、新梢の伸長が遅くまで続く園(幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等)では、展葉初期の防除を徹底する。					
樹	ナシ	黒星病	やや多	やや多	282～285	特記事項 1. 黒星病 開花直前～落弁期は 本病の重要防除時期 にあたるので、薬剤散布の間隔が10日以上開かないように防除を徹底する。 また、降雨が続く場合は状況に応じてDMI剤の追加散布を行う。
		黒とう病	やや多	やや多	327～329	
特記事項 1. 黒とう病 新梢・新葉への感染を防ぐため、 萌芽期～生育初期 にかけて防除を徹底する。						

作物名	病虫害名	4月の予想発生量		病虫害防除のてびきの記載頁	予報対象の病虫害(抜粋)
		平年比	前年比		
果樹 キウイフルーツ	特記事項 1. かいよう病 枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液が漏出する症状や葉の斑点症状(下記写真参照)が無いか園内の見回りを行い、このような症状を示す発病樹の早期発見に努め、発見した場合には直ちに罹病部位を切除する。なお、未発生園で症状が見られた場合は、関係機関に直ちに連絡する。 また、感染防止のため、感染の有無に関わらず、かいよう病の防除を徹底する(詳細については防除のてびきP358~359を参照)。				
					
果樹全般	果樹カメムシ病	少	少	カンキツ: 245~248 ナシ: 299 ブドウ: 344	 チャバネアオカメムシ
茶	カンザワハダニ	並	少	398~399	 カンザワハダニ
	特記事項 1. カンザワハダニ 多くの圃場で発生が認められる。多発してからでは防除効果があがりにくいため、萌芽前までの防除を徹底する。また、生息部位である葉裏に薬液が十分にかかるよう丁寧に散布する。 2. もち病、網もち病 昨年多発したため、昨年発生があった茶園では開葉初期の薬剤散布を行う。				

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

平年(過去10年間)及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。

発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(-)：少発生、(- ~ ±)：やや少発生、(±)：並発生、(± ~ +)：やや多発生、(+)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください(1ページの予報の概要にリンク有り)。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
- 7 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

4月の気象条件

病害虫の発生に関与する4月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報(平成28年3月17日)を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における4月の気象予報(確率予報%)			病害虫の発生に関与する気象条件(平年比)
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	50 (15.0)	30	並
降水量	20	40 (156.2mm)	40	やや少ない

4月の予報

麦類

巡回調査（大麦31圃場、小麦16圃場）
3月16日～18日



巡回調査圃場の様子(左：大麦、右：小麦)

1. 赤かび病

1) 予報の内容

発生時期：**平年より早い**（前年より早い）

発生量：**平年よりやや少ない**（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 麦の生育状況と本病の発生時期

平成27年11月下旬～12月下旬播きでは、節間伸長開始期は大麦、小麦で早い。今後、気温が平年並で経過すれば、出穂期は平年より早くなる見込みであり（農業試験研究センター・県米麦改良協会：平成28年3月22日付け麦づくり情報第4号）、本病の発生時期は平年より早くなると予想される。

(2) 4月の気象予報

降水量は平年よりやや少なく、やや少発生の条件 - ～ ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 出穂期以降に高温（20～27℃）で、降雨が続く場合には多発することが予想されるため、追加防除を実施する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

2. 網斑病（大麦）

1) 予報の内容

発生量：**平年並**（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生茎率3.7%（平年1.8%、前年3.3%）

平年比：やや多 ±～+

前年比：並 ±

(2) 4月の気象予報

降水量は平年よりやや少なく、やや少発生の条件 - ～ ±

3) 防除上注意すべき事項

特記事項を参照。

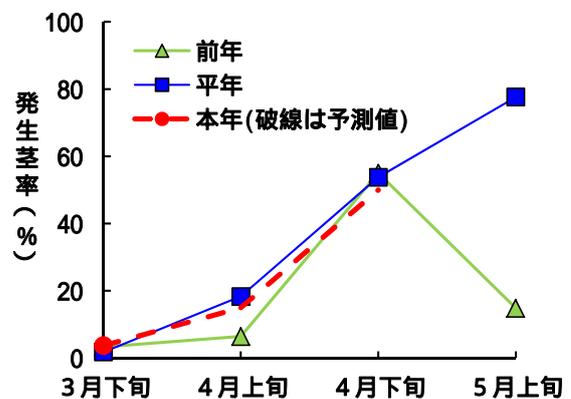


図1 大麦網斑病の発生推移

水稻

1. いもち病（苗いもち）

1) 予報の内容

発生量：**平年より多い**（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 前年の穂いもちの発生状況

平成27年の穂いもちの発生株率は、上場地域の早期水稻（8月上旬）で6.0%（平年3.0%）、北部山間の早植え水稻（9月上旬）で29.8%（平年8.8%）、普通期水稻（10月上

旬)で35.7%(平年9.8%)であり、早期は平年よりやや多く、早植え、普通期は平年より多かった。 +

(2) 籾のいもち病菌保菌率

県内各地の巡回調査地点から採取した平成27年産籾のいもち病菌保菌率は、早植えうるち品種においては平年よりやや高く、普通期うるち品種においては平年より高かった(表1)。 +

(3) 以上のことから、圃場等での菌密度は高いと考えられる。 +

表1 巡回調査圃場における平成27年産籾のいもち病菌保菌率

作 型	品 種	調査圃場数	保菌籾率	平年 (保菌籾率)
早期水稲	コシヒカリ	12 圃場	0.2 %	1.0 %
早植え水稲	ウルチ品種	16	4.6	1.9
普通期水稲	ウルチ品種	38	3.4	0.6
	モチ品種	10	0	0.1

注) 早期水稲、早植え水稲では各圃場ともに50粒の籾を、普通期水稲では各圃場ともに25粒の籾について保菌状況を調べた。
保菌籾率の平年は平成17~26年産の平均値。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 種子更新を徹底する。
- (2) 育苗箱で種籾が露出すると本病が発生しやすいので、覆土を適正に行う。
- (3) 苗いもちがみられたら、早急に取り除くとともに防除を行う。
- (4) 例年、本病の発生が多い地域では、育苗箱施薬剤を施用する。
- (5) その他については、特記事項を参照する。

2. ばか苗病

1) 予報の内容

発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の状況

前作での発生 平年並 ±

3) 防除上注意すべき事項

比重選、種子消毒を徹底する。

イチゴ(本圃)

巡回調査(12圃場)
調査日：3月16~18日



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）
 発生株率：28.3%（平年19.0%、前年31.3%）
 （発生圃場率：83%）
 平年比：やや多 ± ~ +
 前年比：並 ±
 病害虫防除員による調査（4圃場）
 3圃場で発生確認、発生株率は5.5% -

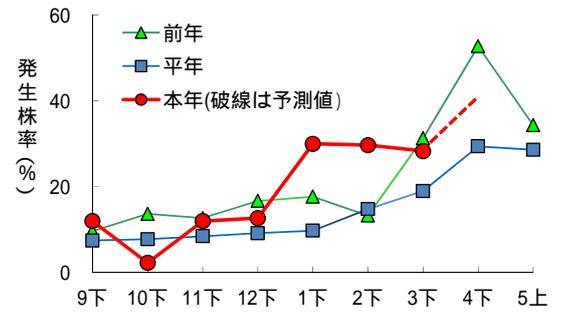


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容
 発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）
 発生株率：8.8%（平年5.3%、前年5.0%）
 平年比：やや多 ± ~ +
 前年比：やや多 ± ~ +

病害虫防除員による調査（4圃場）
 発生を確認していない、発生株率は0% -

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除においては、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

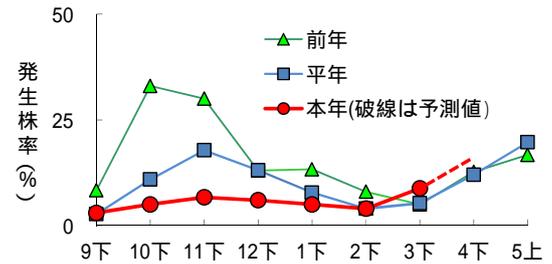


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

キュウリ（半促成）

巡回調査（8圃場）
 調査日：3月16～18日

1. べと病

1) 予報の内容
 発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）
 発生株率：8.1%（平年2.6%、前年0.6%）
 平年比：やや多 ± ~ +
 前年比：多 +

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件
 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場での発生に注意し、初発生時から計画的な防除を行う。



巡回調査圃場の様子

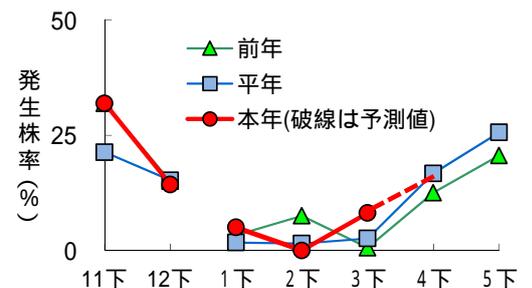


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.0%、前年1.9%）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：やや少 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

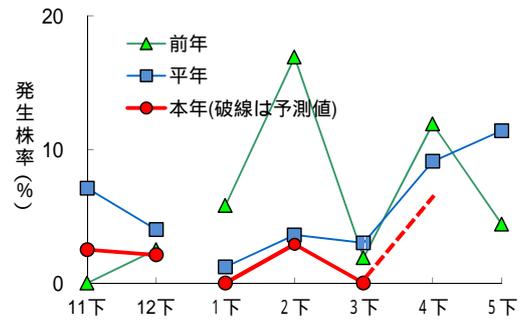


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い
（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：0.6%（平年0.2%、前年0%）

平年比：やや多 ± ~ +

前年比：やや多 ± ~ +

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

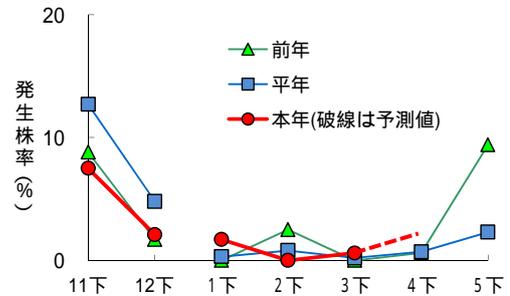


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

巡回調査（8圃場）

3月16～18日



巡回調査圃場の様子

1. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：5.0%（平年10.6%、前年8.1%）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：やや少 - ~ ±

病害虫防除員調査（6圃場）

3圃場で発生確認、発生株率は15.0% ±

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

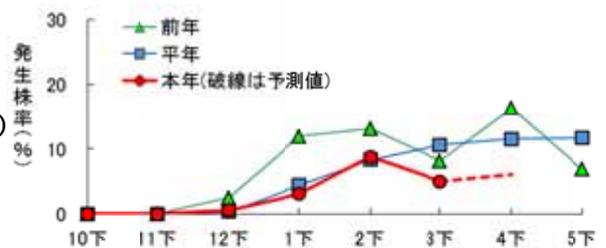


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病果や発病葉は除去し、発生初期からの防除を徹底する。

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：3.8%（平年2.3%、前年6.3%）

平年比：やや多 ± ~ +

前年比：やや少 - ~ ±

病害虫防除員調査（6圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は3.3% ±

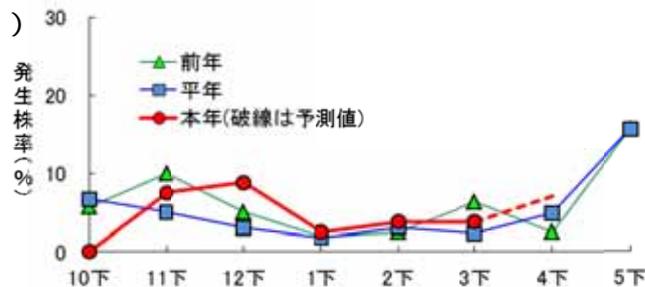


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

食害株率：0%（平年0.4%、前年0%）

平年比：並 ± 前年比：並 ±

病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は1.7% +

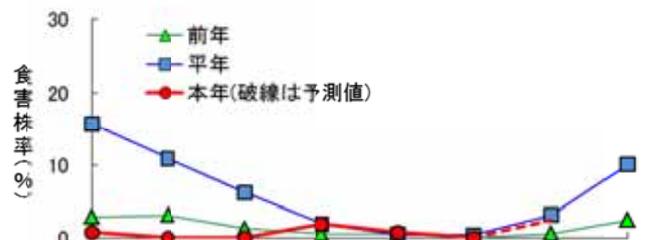


図1 ハモグリバエ類のトマトでの食害株率推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫寄生葉は除去し、施設外へ持ち出して処分する。

(2) 本虫の発生を認めたら、初期防除を徹底する。

ナス（促成）

巡回調査（8圃場）

3月14～18日



巡回調査圃場の様子

1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：38.8%（平年27.5%、前年25.6%）

平年比：やや多 ± ~ +

前年比：やや多 ± ~ +

病害虫防除員による調査（4圃場）

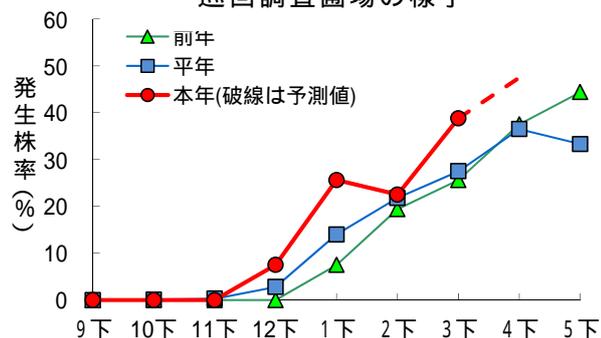


図1 ナスすすかび病の発生推移

- 2圃場で発生確認、発生株率は3.8% -
 (2)4月の気象予報
 降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

- (1)発生を認めていない圃場では、注意して観察し早期防除(ダコニール1000とベルコートフロアブルを交互に一週間間隔で散布し、約一ヶ月散布)に努める。
 (2)耐性菌が発生しやすいQoI剤及びSDHI剤、DMI剤は、薬剤感受性の低下を防ぐため、使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。(病害虫防除のてびき 247~250ページを参照)
 (3)その他については特記事項を参照。

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

巡回調査(図1参照)

発生株率：3.1%(平年1.7%、前年0%)

平年比：やや多 ± ~ +

前年比：多 +

病害虫防除員による調査(4圃場)

発生株率は0% - ~ ±

(2)4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

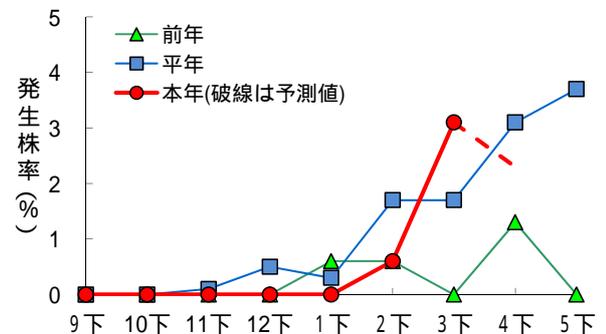


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。
 (2)その他については、特記事項を参照。

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

巡回調査(図1参照)

発生株率：3.1%(平年7.8%、前年0%)

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：並 ±

病害虫防除員による調査(4圃場)

1圃場で寄生確認、寄生株率は7.5% ±

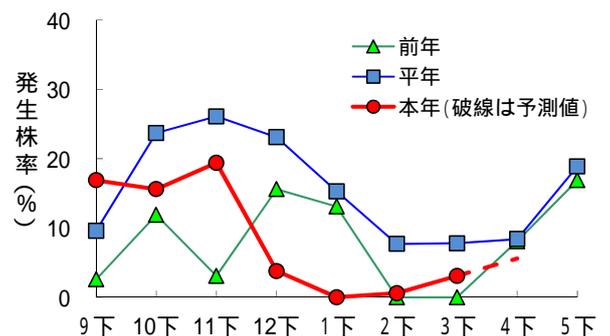


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
 (2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。
 (3)その他については、特記事項を参照。

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：1.3%（平年14.6%、前年1.9%）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：並 ±

病害虫防除員による調査（4圃場）

寄生株率は0% - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

(3) その他については、特記事項を参照。

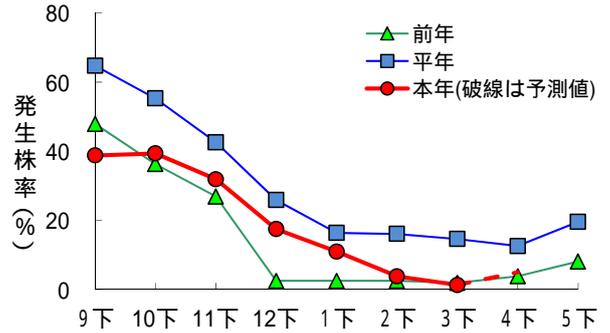


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

タマネギ

巡回調査（16圃場）

3月14、17日



巡回調査圃場の様子

1. べと病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

越年罹病株発生株率：1.4%（平年0.3%、前年0.5%）

平年比：多 + 前年比：多 +

巡回調査圃場以外で、二次病斑が認められた

+

(2) 4月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

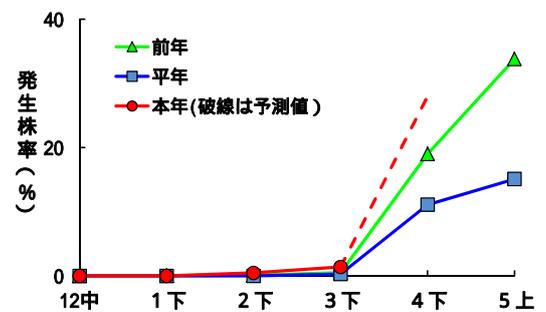


図1 タマネギべと病の発生推移

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：1.3%（ 平年14.6%、前年5.5% ）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：やや少 - ~ ±

(2) 4月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の防除を徹底する。

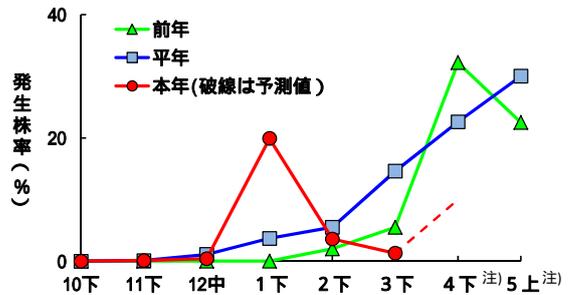


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

3. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生株率：2.8%（ 平年8.8%、前年1.5% ）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：並 ±

(2) 4月の気象予報

気温は平年並で、並発生の条件 ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、かけむらがないように散布する。

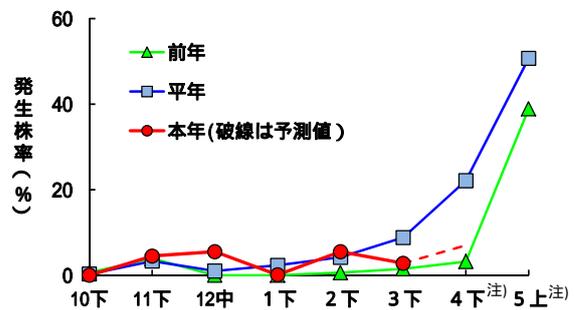


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

キク

巡回調査（8圃場）

3月14～18日



巡回調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：4.5%（ 平年3.1%、前年0% ）

平年比：並 ±

前年比：やや多 ± ~ +

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 暖房機による送風や循環扇を活用するなどして、適切な湿度管理に努める。
- (2) 発病後の防除は難しいため、薬剤の定期的な散布と硫黄剤のくん煙処理を組合わせて防除する。
- (3) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

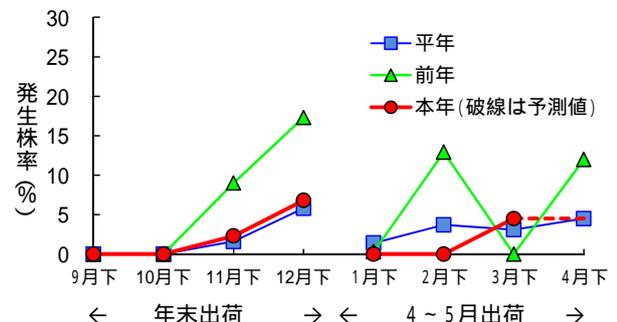


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クログハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0%（平年2.7%、前年10.5%）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：少 -

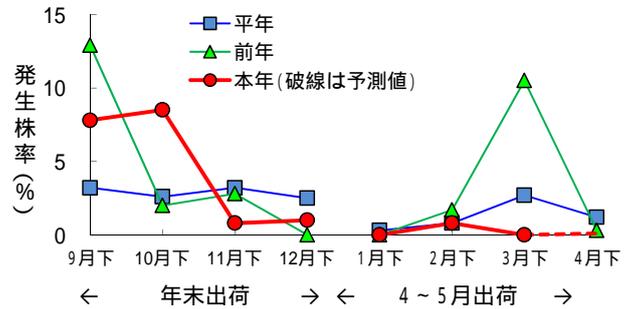


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。

(2) その他については特記事項を参照。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：5.5%（平年4.5%、前年0%）

平年比：並 ±

前年比：やや多 ± ~ +

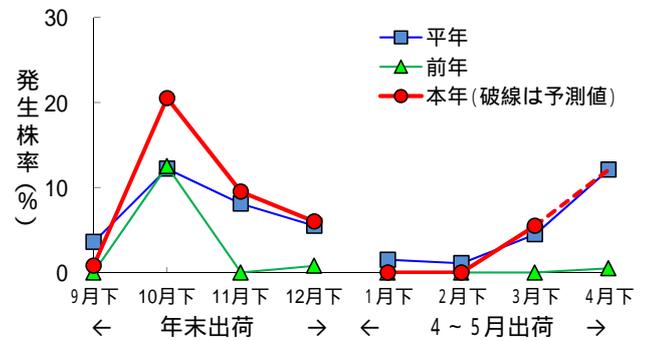


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(2) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう散布する。

(3) その他については特記事項を参照。

4. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

食害株率：0.3%（平年0.9%、前年0%）

平年比：並 ±

前年比：並 ±

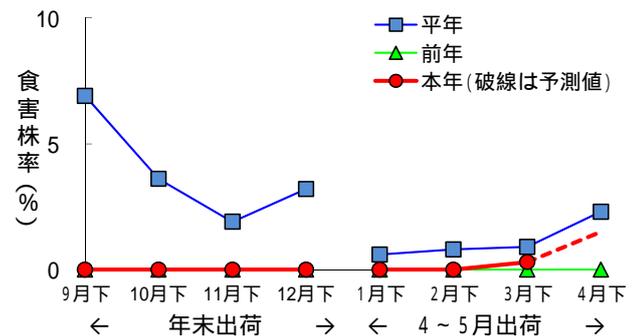


図1 ハモグリバエ類のキクでの食害株率の推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本種の発生を確認したら、直ちに薬剤防除を行う。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

カンキツ

巡回調査（8圃場）
3月15～18日



巡回調査圃場の様子

1. そうか病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並 ± 前年比：並 ±

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 温州みかんでは、展葉初期（最も伸びた新梢が1cm程度）の防除を必ず実施する。

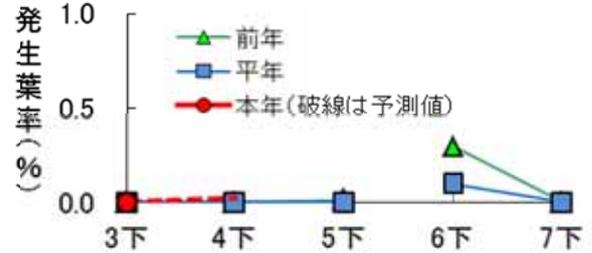


図1 カンキツそうか病の発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

2. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0.5%、前年0%）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：並 ±

昨年、中晩柑類を中心に本病の多発圃場が確認されている ± ~ +

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件

- ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

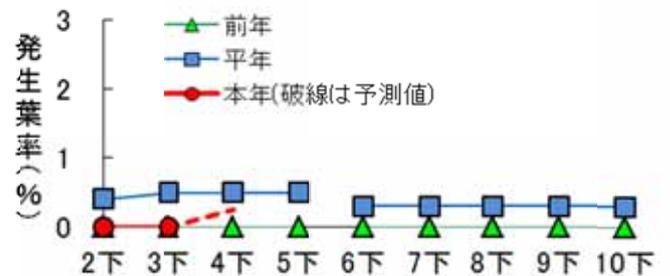


図1 カンキツかいよう病の発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

巡回調査（図1参照）

発生葉率：7.3%（平年3.3%、前年0.3%）

平年比：やや多 ± ~ +

前年比：多 +

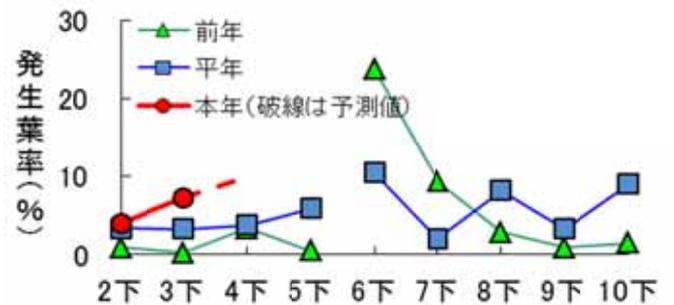


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

- (2)4月の気象予報
降水量がやや少なく、やや多発生の条件
± ~ +

3) 防除上注意すべき事項

- (1)殺ダニ剤に対する抵抗性発達を避けるため、4月～6月下旬はマシン油乳剤の使用を基本とする。ただし、樹勢が低下している樹では、マシン油乳剤の散布を控え、ダニ剤散布で対応する。

ナシ

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)昨年秋の発生状況（図1参照）

巡回調査（平成27年9月下旬）

発生葉率：2.0%（平年1.1%、前年0.8%）

平年比：やや多 ± ~ + 前年比：やや多 ± ~ +

昨年、本病の多発生圃場が確認されている

± ~ +

以上のことから、園内で越冬した菌の密度は平年及び前年よりやや多いと考えられる。

(2)4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

- (1)特記事項を参照。

ブドウ

1. 黒とう病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)昨年秋の発生状況（図1参照）

巡回調査（平成27年9月下旬）

発生葉率：1.2%（平年0%、前年0%）

平年比：多 + 前年比：多 +

以上のことから、園内で越冬した菌の密度は平年及び前年より多いと考えられる。

(2)4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 - ~ ±

3) 防除上注意すべき事項

- (1)罹病枝の剪除と巻きひげの処分を徹底する。
(2)その他は特記事項を参照。

カメムシ類

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 果樹カメムシ類の越冬状況（表1参照）

平均越冬虫数：0.03頭/m²（平年0.36頭/m²、前年 0.18頭/m²）

平年比：少 - 前年比：少 -

越冬地点率：9.1%（平年46.7%、前年31.8%）

平年比：少 - 前年比：少 -

以上のことから越冬密度は平年よりやや少ないと考えられる。

(2) 越冬状況を基にした果樹園へのカメムシ飛来量の予測（図1参照）

越冬状況調査の結果から、本年の4月～8月上旬における果樹園への果樹カメムシ類の飛来量は、平年及び前年より少ないと予測される。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹カメムシ類の飛来については、カンキツ（開花期前後）、ナシ、ウメ、モモなどで特に注意する。

(2) 越冬密度は地域によって異なるため、飛来状況に注意する。

(3) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪定をする。

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ成虫の平均越冬虫数¹⁾及び越冬地点率の推移(平成18～28年)。

No.	調査地域	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	平年
1	みやき町	-	0.3	0	0	3.0	0	0	0	0.3	0	0.3	0.40
2	吉野ヶ里町	1.7	0	1.0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0.37
3	神崎市	0	0	0.3	0.3	0	0.3	0.7	0	3.0	1.7	0	0.63
4	佐賀市	1.2	0	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0.26
5	小城市	0.3	0.3	0.3	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0	0.16
6	多久市1	0.3	0.2	0.8	0.3	0.7	0	0	0	0	0	0	0.23
7	多久市2	-	-	-	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.05
8	唐津市1	1.2	0	0	0	0	0.3	0	0	0.3	0	0	0.19
9	唐津市2	-	-	-	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.04
10	唐津市3	-	-	-	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.04
11	伊万里市1	2.2	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0	0.28
12	伊万里市2	-	-	-	0.7	0.7	0	0.3	0	0.3	0	0	0.29
13	伊万里市3	-	-	-	1.3	0.7	0	1.0	0	1.0	0	0	0.57
14	武雄市1	3.3	0	0	0.3	0	0	1.3	0.3	0	0	0	0.52
15	武雄市2	-	-	-	0	0.3	0	0.3	0	0.7	0	0	0.19
16	鹿島市1	1.4	0	0	0.3	0.7	0	0.3	0	0	0.3	0	0.30
17	鹿島市2	-	-	-	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0	0	0.19
18	鹿島市3	-	-	-	0.3	0.3	0	1.0	0.3	0	0.3	0	0.33
19	太良町1	1.5	0	0.1	0	0.7	0.3	0.7	0.3	0	0	0	0.36
20	太良町2	-	-	-	0.7	0.7	0.3	0.7	0.3	0.3	0	0	0.44
21	太良町3	-	-	-	0.7	2.3	0.7	1.0	0	0	0.7	0	0.77
22	太良町4	-	-	-	0	1.0	0	0.7	0	0	0.3	0	0.29
	平均越冬虫数	1.31	0.07	0.26	0.37	0.55	0.10	0.36	0.06	0.29	0.18	0.03	0.36
	越冬地点率(%)	90.0	27.3	54.5	72.7	59.1	27.3	50.0	18.2	36.4	31.8	9.1	46.7

¹⁾ 各地点 1 m²あたりの虫数

調査方法

本年の1月～2月上旬に、県内22地点の常緑広葉樹林の林床から落葉を採取し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬状況を調査。

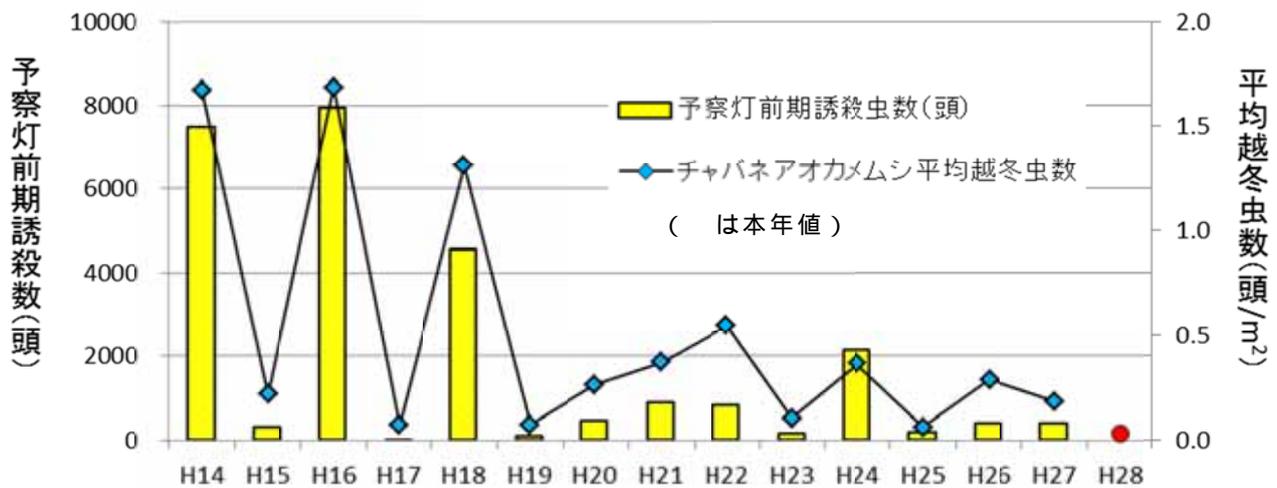


図1 チャバネアオカメムシ成虫の平均越冬虫数（頭/m²）及び予察灯前期誘殺虫数¹⁾の年次推移。
¹⁾ 県内に設置された予察灯3台による5月～8月10日までの総誘殺虫数の平均値を示す

茶

巡回調査（7圃場）
 3月17～19日



巡回調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：3.0%（平年8.1%、前年15.6%）

（発生圃場率：85.7%）

平年比：やや少 - ~ ±

前年比：少 -

(2) 4月の気象予報

降水量がやや少なく、やや多発生の条件 ± ~ +

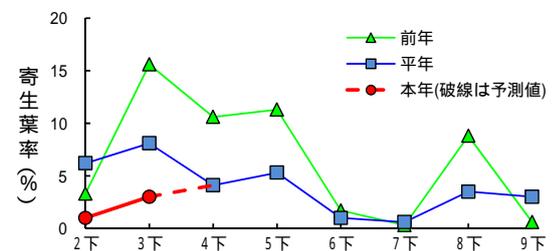


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は年一回の使用とする。

(2) その他については特記事項を参照。

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に2月25日～3月22日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
水稻	縞葉枯病			3/15 神奈川県 3/22 茨城県	
イチゴ	ハダニ類	2/29 山口県 3/15 長崎県		3/1 奈良県	
タマネギ	べと病	2/29 山口県 3/10 佐賀県 3/10 長崎県		2/29 香川県 3/1 愛知県 3/16 兵庫県	
	白色疫病	2/29 山口県		2/29 香川県 3/9 和歌山県	

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名		病害虫名	発表日及び発信元
野菜	トマト	葉かび病（レース2.9）	3/3 山口県
		黄化病（ToCV）	3/17 山梨県
	ホウレンソウ	べと病（レース13）	3/22 徳島県
	メボウキ（バジル）	べと病（仮称）	3/1 愛知県
茶		チャトゲコナジラミ	3/7 長崎県
花き	ユキヤナギ	ユキヤナギハマキフシダニ（仮称）	3/4 長野県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。
 農薬の登録内容は変更されることがあります。
 使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。